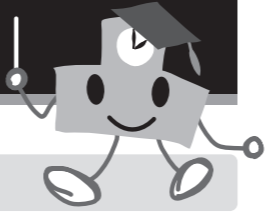


小学校の事例 清田区 三里塚小学校

栽培活動から食・環境を学ぶ。収穫祭では地域との交流も。

300坪の畑を学年ごとに利用した栽培学習。収穫時には町内会や敬老会など交流ある地域の方を招待し「ほくほく集会」を開催。フードリサイクルの実践を食育・環境教育に結びつけて。



はじめ 300坪の畑「緑の庭」で栽培活動

本校では、食物の循環の学習及び人とのふれあいを目的に、生活科や総合的な学習の時間を利用して全校で野菜の栽培に取り組んでいる。栽培は地域住民から寄贈された約300坪の畑で行っており、「緑の庭」と名付けられている。



乾燥中のトウモロコシ

緑の庭での栽培活動では、収穫を終えた秋、児童が学校周辺で拾った落ち葉と、札幌市からもらっている米ぬかとフードリサイクル堆肥を混ぜあわせて土づくりを行っている。

内容 「ほくほく集会」で 地域の方とカレーを味わう

「緑の庭」で栽培しているのは、ニンジン、ジャガイモ、タマネギ、エダマメ、ポップコーン用トウモロコシなどで、学年ごとに子どもと教師で相談して決めている。2～4年生は秋ダイコンも栽培している。草取りや水やりなどの畑の世話は登校時や昼休みに行っており、当番制にするなど学級ごとに工夫している。

カレーは、約40名のPTAボランティアが作っているが、今後は児童が調理することも検討中である。

※シニアスクールとは、毎週水曜日、60歳以上の方が小学校の空教室で国語、理科、社会、音楽などの講義を受けるという、区民センターが主催している事業。給食会、芋掘り、ゲームなど、児童との交流もある。

収穫後は「ほくほく集会」という収穫祭が開かれ、カレーを食べたり、1年生から6年生まで異学年のたて割りグループでゲームを行ったりしている。これは学校創立100周年のお祝いに児童の発案で開かれたカレーパーティーが、今も収穫祭というかたちで続いているものである。集会には交通指導員、敬老会、町内会、シニアスクールの方など、普段からお世話になっていた、交流のある約40名の地域の方を招待している。



栽培した作物

効果 栽培体験からフードリサイクルを実感

種植えから収穫、堆肥まきを体験することで、フードリサイクルの流れや食物を栽培する苦労を実感している。また「とれたてや自分で作った野菜はおいしい」という反応もある。給食親学校の栄養士さんと連携し、学年毎に1学期と3学期に食育の授業を行い、収穫して食べることで児童は楽しみを覚え、栽培活動に前向きに取り組んでいる。



「実物」の堆肥を掲示

非常に広い畑なので、管理を行っていくには児童だけでなく大人の力がどうしても必要である。畑の作業日を設定して、担当以外の教職員の協力を得やすいようにしている。

今後 食育と環境教育の連動化を進める

環境学習は、実際に触れて体験させることが最も重要である。1年生から6年生まで、発達段階に合わせながら、近隣の公園の自然など、児童にとって身近なものを教材として使いながら、環境学習に取り組んでくることが大切である。



作物の成長のようす

今後、緑の庭の栽培活動と、食育・環境教育との連動化を一層進め、フードリサイクルや環境への関心をもっと高めていきたいと考えている。

また、栽培している野菜は夏野菜が多く、収穫の時期が夏休みと重なっている。今は教師が収穫しているが、今後は夏休みが明けてから児童が収穫できるように調整したいと考えている。

広げよう つながりよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

栽培の方法や食物の循環を児童へしっかり指導するためには、まず、教師が畑を観察することが重要です。そうすることで、本など他から得られた知識だけでなく、実体験を身をもって伝えることができ、児童の興味や関心も高まると思います。